

# 北九州憲法ネットニュース

発行 9条の会・北九州憲法ネット 2015年11月10日 第81号  
 TEL592-5000 fax 571-4346  
 803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F  
 URL⇒<http://kitaq-kenpou.net/>

## 第9条

戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

## 憲法共同センター第2回総会に68名 原田敬一氏の講演も大好評

10月17日、14時から、商工貿易会館で開かれた「北九州憲法共同センター第2回総会」は、68名の参加でした。大内百合子さん(新婦人)の司会で、来賓挨拶から始まりました。日本共産党田村貴昭衆議院議員が、戦争法案の強引な採決の状況を怒りを込めて報告しました。前田憲徳さん(自由法曹団)から、主催者挨拶と、総会議案の説明が行われ、全員の拍手で採択され、北九州憲法共同センターの新しい年度の出発ができました。

今年の憲法共同センターの行動の特徴は、戦争法案反対の取組を大きく高揚させたことです。「北九州憲法共同センター」と門司地区労等で構成する「憲法改悪反対！北九州連絡会」の二つの憲法運動団体が、行動開始前に、話し合いを持ち、共闘を丁寧に維持してきたことが、北九州の戦争法案反対の大きな流れを作り出しました。今後も、粘り強い共同の行動を展開することを方針で掲げています。

記念講演は、佛教大学教授で、「戦争の終わらせ方」の著者である 原田敬一さんです。原田さんは、「戦争はなぜ止められなかったか」と題して、70分、よどみなく話し続けます。

日清戦争～日露戦争～第一次大戦～満州への進出～第2次大戦と、50年余の戦争に、日本国民、アジアの人々の多大な犠牲を出したこの戦争。止められなかったのはなぜか？原田氏は、自らに問いかけ、歴史の歩みに沿って、時々のエピソードを交えて、話し続けます。

明治憲法(欽定憲法)による、天皇主権、警察・憲兵による住民支配、新聞等(この期間の後半は、ラジオが主となる。)マスコミの政府の言論統制と、マスコミ自体の翼賛記事・放送で、国民は



記念講演する原田敬一教授

煽動され、「嵐のような満蒙熱」(大阪朝日新聞1932・3・2)と報道される状況になっていた。少数の、自覚した平和を求める人々(中には、軍隊の中にも反戦のグループもあった。)の活動では、戦争防止は不可能だった。

そして、今、戦争法制ができ、新たな局面で、何が重要なのか？

戦争法を作ったのは、「敗戦」を認めず、戦前のみを美化する一群の人々。彼らは、1997年に「日本会議」を立ち上げ、美しい伝統の国柄の日本をつくるとしながら、そのために現行憲法を廃し、新しい憲法をつくることを目的にしています。この日本会議のメンバーが安倍政権の中心になり、大臣の数で、最多のときには、80%を占めていました。彼らは、今後、スーダンなどでの、自衛隊の武器使用を進め、犠牲者が出た時に、これを大いなるチャンスとし、一気に憲法改正への道を進もうとしています。「今こそ、この戦争法制を撤廃させることが、私たち国民の安全を守るために緊急に求められます。」こう結んで、原田さんは講演を終わりました。(文責・野瀬)

# 憲法9条を守る折尾の会・第7回総会開催

## 記念講演は、東敦子弁護士

10月31日、折尾駅前のビルで「憲法9条を守る折尾の会第7回総会」が開かれました。来賓として、本城・赤坂9条の会の山本さんと、北九州憲法ネット事務局長の野瀬が参加しました。この会は、毎月、折尾4丁目交差点で、宣伝を続ける粘り強い活動を続けてきています。事務局会議は、毎月1回開き、会報「おりお」も月1回発行(200部作成し手配りが190部)しています。しかし、総会を開くのは5年ぶりとか、多くの地域9条

### 戦争法廃止に向けて、東弁護士が語る

総会の後、記念講演に移り、黒崎合同法律事務所弁護士・東敦子さんが講演しました。演題は「戦争法廃止に向けて今後の取り組み」です。東弁護士は、「折尾9条の会の誕生した2004年は、私の子供が生まれた年で、覚えやすい」と軽い出だして、聴衆をひきつけます。



の会の現状をも反映しているようでした。それでも、空席となっていた事務局長に中嶋洋一さんが就き、代表は竹下秀俊さん(元九州共立大教授)、副代表には長田正隆さん、同、佐藤満洲男さん、事務局員には5人の方になってもらっています。今後の活動は、①街頭署名を第2金曜日、第4金曜日に行う。②、「戦争法」廃止署名行動を行うことを決めました。

東弁護士は、「立憲主義・民主主義とは何だ?」と問いかけ、安倍首相が言った“私が最高責任者だ”という発言の重大さを指摘しました。この発言に怒った全国の学者や文化人が一斉に反発し、これを契機に戦争法案の反対運動が盛り上がったことを紹介。わかりやすい次の話も紹介。立憲主義:“飲んだら、帰りにはきちんと代行運転を頼むからと言っていたとしても、年のため、車の鍵は、酒を飲まない人預けるという発想”。

それでは、今後の運動はどうするのか? 東弁護士は①まずは、身近な人に話すことから始めることを薦めます。無関心な人を変えていく仕事を進めることが重要。②共闘を幅広く続けるには、相手の話を冷静に聞くこと。③安倍政治側にいる人には、アンテナを張って、冷静に”突っ込み”を入れ続け、選挙大丈夫か? というプレッシャーをかける。などを提案しました。(野瀬記)

# 戦争展・戦跡ツアーに参加しました!

## 偲ばれる、特高青年の胸の中

10月12日(月:体育の日)。「第21回平和のための戦争展 in 北九州」戦跡めぐりに参加しました。私は、長年、戦争展実行委員長なのに、一度も戦跡めぐりはしていませんでした。総勢13

9条の会・憲法ネット副座長 三輪 俊和名でしたが、門司港の秋日和、うみは穏やかで70年前の自然の景観と変わらずとも、当時の海上特攻基地で明日のない訓練を強いられていた青年幹部候補生の胸中が思いやられた一日で

した。門司港からの出征兵士に関わる施設と蕪島の水上特攻基地跡めぐりがメインでした。皆さんは御存知でしたでしょうか。私は知らなかったのですが、門司港から200万人の兵士が出兵し、100万人以上の兵士が帰らぬ人となりました。先の侵略戦争は、2000万人のアジア人と300万人の日本人が犠牲者となったと学んでいましたので、出征兵士の碑を見て、門司港から出征し、犠牲者となられた人の多さに重苦しい衝撃を受けました。全国で70万～100万頭と言われる軍馬は、水飲み場で故郷の最後の水を飲み、輸送船に乗り込まれました。再び帰国した馬は1頭もいない。私たちは、門司港西岸壁を歩きながら、想像を逞しくして「アジア侵略戦争の出兵と収奪の港」に思いを馳せました。それから3台の車に便乗して、蕪島に向かいました。「これが蕪島か」。島というより岩礁ではないか。

蕪島は、海上特攻基地跡を鮮明に残していました。この蕪島海岸で、「海上の防衛」をする陸軍船舶部隊がつけられ、4式肉薄攻撃艇で敵艦に特攻攻撃する訓練が16才～18才の特別幹部候補生に強制されました。写真のように、蕪島のあちこちの岩礁に洞穴があります。ここに、4式肉

薄攻撃艇を格納し、特攻出撃訓練を繰り返していました。このような特攻攻撃に従事した海軍約1000名、陸軍約540名の若者が天皇制軍国主義の無残な犠牲者になりました。毎年のことながら、北九州平和資料館の小野逸郎さんが配布された資料をもとに、気持ちを込めた説明をしてく



蕪島の海軍水上特攻艇を隠した洞穴

ださいました。ありがとうございました。来年以降も、さらに参加者が増えて続いていってほしいと思いました。

## 憲法共同センター第2回総会を開催 (中央段階)



たいと思います」主催者あいさつをしました。  
来賓あいさつを抜粋しご紹介します。

## 戦争法廃止へむ け決意新たに！

10月28日、憲法共同センター第2回総会が開催され運営団体、構成団体、各地の共同センターなどから40人が参加しました。

冒頭で自由法曹団・久保田明人次長が安倍政権の暴走と国民の反対運動に触れたうえで「憲法共同センターでは引き続き戦争法制廃止のたたかいにおいて積極的な役割を果たすことが求められています。本日はこの一年間の活動を総括し、今後の闘いにむけて大いに議論し来るべき闘いに力を結集する場に

## 来賓あいさつ

## ■戦争をさせない 1000 人委員会 福山真劫さん(フォーラム平和・人権・環境共同代表)

今日は大変緊張をしております。なんで緊張しているかと言うと、みなさん「安倍政権倒そう」「平和と民主主義を確立しよう」と本気じゃないですか。本気なところへきて、私なんかが挨拶やっただんじゃ大変だなという思いがあるんです。

盛本さんとの出会いは、平和フォーラムに『9の日』行動に参加してくれないか』と連合会館に来た時です。その時は、「それは無理でしょう。」と言って帰っていただいた思い出があります。だけど、安倍の暴走がここまでひどい、何としても安倍の暴走を止めねばならんと。平和フォーラムあるいは1000人委員会だけで止められるのかと言われたらやっぱり忸怩たるものがありますよね。止めるために何が必要なんだ、一つは野党が連携すること。それぞれ言い分がありますが、横に置いて「戦争法案反対」「安倍の暴走止める」この一点で一致して頑張ろうということになるわけです。共同センター、9条壊すな、1000人委員会で野党を引っ張ると。この中にしか勝利の展望ないんじゃないかというのが私の判断です。そういうことで今まで引っ張ってきました。

3団体の連携は本当にうまくいって、全然トラブルはなかった。みんな大人なんですよ。「安倍の暴走を止めるには協力しよう」とみんなそう思

っていた。そして9月19日まで来た。そしていろんな方々の所へ運動が広がっていった。我々総がかりも大きな運動の一翼を担えたかと思う。ある人が、「福山さんこんなことやっているけど大丈夫なんですか？」と心配してくれた人もおりましたけれども。だけど、共産党の本気度、憲法共同センターの本気度に俺らが負けてたまるかと一方であるわけです。だから右からの批判は無視をして走ろうと思っています。

2000万署名は、私がずっと運動にかかわってきて、憲法共同センター、1000人委員会、9条壊すな！実行委員会の統一した署名というのは経験がないんですよ。やっぱりそこをやって、絶対2000万近く集めると。そして「5.3」集会も一緒にやると。そんな大きな運動を組み立てていって、来年の参議院選挙、これで絶対与野党逆転を勝ち取ろうという戦略を描くべきだと、私は率直に思います。

平和フォーラムも、戦争をさせない1000人委員会も、9条壊すな！実行委員会も皆さん方と連帯して安倍の暴走を止めるということで頑張ると思っていますので、引き続いてよろしくお願ひしたいし、皆さん方が運動を引っ張ってきたと、新しい方向を目指して新しい運動をつくりつつあるんだということだと思いますのでぜひ頑張っていたきたいと思います。(憲法共同センターNEWS 2015年10月30日第114号から)

## カンパありがとうございます。そして、お願い!

「9条の会・北九州憲法ネット」は会費をとらず、皆さんからのカンパのみで運営しています。カンパにご協力いただける方は下記の郵便振替口座までお願い致します。

振替番号：01700-8-115768 名義：「九条の会・北九州憲法ネット」

カンパ9月 村上憲子 河村智重子 荒牧啓一 諸岡昭三郎 高野和夫 小沢和秋 竹中松夫 玉井史太郎 上田義彦 上田秀子 浜口紀美子 高智彦 川辺希和子 有馬真弓 10月 黒坂佳男 近藤伊都子 桑田勲二 末安良光 八記久美子 田島勝彦 渡辺末子 三浦俊和 三浦幸子 久保忠彦 小川由美 小野恂一郎 小野文子 平岡博 11月 佐多道人

メッセージ ●あべ政権打倒の国民連合政権をつくりましょう！わずかですがよろしく 10/7 Y. S ●今回も知人が協力してくれましたので私の分と一緒に送金します 10/15 S. W ●お疲れ様です。若い人の行動力に、力をもらいます。元気もらいますね。 10/19 U. O

